

# STREAM

交通安全教育の潮流

高校におけるこれからの交通安全教育 連載:第2回

## 高校の交通安全教育の現場



三木北高校(写真上)と佐沼高校(写真右)では、定期的に教職員や保護者が協力して登校指導を実施している

「こうした調査をしたのは今回初めてだったのですが、中々」と話す。

取組みを始めるにあたって、同校では全生徒に「交通安全アンケート」を実施した。ここでわかったことは、登下校時のヒヤリハット体験が多かったことだ。



### アンケート調査・分析を通じて生徒の通学実態を把握

運転免許を取得できる年齢となり、交通社会に一人前として迎えられる高校生。自分の命を守るという意識、他者への配慮などを、教育現場では伝えていかなければならない。前回(4・5月号)では、課題のひとつとして指導する側の「知識の教授のみならず、高校生に対する動機づけの重要性」を提起した。今回は、こうした課題に取り組んでいる2つの高校の事例を参考にしながら、教育現場でどのように交通安全教育を実践していくべきかを探っていく。

「この調査をしたのは今回初めてだったのですが、中々」と話す。取組みを始めるにあたって、同校では全生徒に「交通安全アンケート」を実施した。ここでわかったことは、登下校時のヒヤリハット体験が多かったことだ。



各学年で実施された交通安全ホームルーム

同校では毎年4月に生徒指導部の教職員が自転車通学者に対して交通安全講話を行っている。また、7月には警察など外部から講師を招いて、生徒と保護者向けにも講話を実施している。

### 「Safety Action 21」を活用した交通安全の授業

これに加え、昨年度は各学年でホームルームの時間に交通安全教育の授業を行った。2年生、3年生には「Safety Action 21」(下記参照)を活用。授業では「違反や事故はあなたの人生設計に影響を与える」「事故にあったらどうする?」「事故を見たらどうする?」をテーマとした指導資料が使われた。



三木北高校の1年生が作成したハザードマップは文化祭で展示。文化祭では、生徒たちが来校した小学生などに交通クイズを実施するなど、地域の方々への啓発活動も行われた

「前年度の冬休みと春休みに免許を取得した生徒を含めて、全員に受講してもらっています。運転に慣れた頃が最も危険なので、基本に立ち戻れるようにするためです。1年生

「前年度の冬休みと春休みに免許を取得した生徒を含めて、全員に受講してもらっています。運転に慣れた頃が最も危険なので、基本に立ち戻れるようにするためです。1年生

### 心のマナーから交通安全教育へ

宮城県佐沼高等学校(宮城県登米市)も生徒への交通安全教育に力を入れている高校の1つだ。同校には690名の生徒が在籍しており、1年生は約90%が自転車を利用して通学している。同校では入学直後の1年生に対する指導として、自転車で登校した際、指定場所の範囲内に正しく自転車を駐輪すること、そして必ず施錠を行うことを徹底している。

「教職員が交通違反や交通事故の刑罰について解説し、職業によっては違反や事故で将来就職できなくなる場合があることを生徒に伝えました。また、事故を見たり、事故に遭った時の対応を班ごとに話し合う場を設け、生徒の気づきを促す形で、軽微な事故であっても適切に対応するように指導しました。こうした授業が生徒が事故や違反を自分の問題として考えるきっかけになったと梶原教諭はいう。



三木北高等学校生徒指導部長の梶原洋一教諭

**Safety Action 21**  
高校生の交通安全教育

「Safety Action 21」はホームルームなどの授業の中で、免許取得年齢に達する高校生を対象に、生涯を通じて良い交通社会人となるための体系的な交通安全教育を行えるように、一般社団法人 日本自動車工業会が開発したテキスト。「ワークシート」を核にし、生徒と先生がコミュニケーションを取りながら授業を進める教育手法をとっている。

テキストは「指導展開案」「ワークシート」「ワークシートの回答」「先生用の資料」「専門家のコラム」の5つのパートで構成され、交通安全教育を初めて教える先生方でも充実した内容で授業を進められるように組み立てられている。

指導資料と生徒用資料は下記の一般社団法人 日本自動車工業会のホームページからダウンロード可能(無料)。  
<http://www.jama.or.jp/safe/safety/>



佐沼高校では近隣の教習所で年2回原付通学者を対象にしたバイク安全運転講習会を開催

「Safety Action 21」はホームルームなどの授業の中で、免許取得年齢に達する高校生を対象に、生涯を通じて良い交通社会人となるための体系的な交通安全教育を行えるように、一般社団法人 日本自動車工業会が開発したテキスト。「ワークシート」を核にし、生徒と先生がコミュニケーションを取りながら授業を進める教育手法をとっている。

「前年度の冬休みと春休みに免許を取得した生徒を含めて、全員に受講してもらっています。運転に慣れた頃が最も危険なので、基本に立ち戻れるようにするためです。1年生

「Safety Action 21」はホームルームなどの授業の中で、免許取得年齢に達する高校生を対象に、生涯を通じて良い交通社会人となるための体系的な交通安全教育を行えるように、一般社団法人 日本自動車工業会が開発したテキスト。「ワークシート」を核にし、生徒と先生がコミュニケーションを取りながら授業を進める教育手法をとっている。

「Safety Action 21」はホームルームなどの授業の中で、免許取得年齢に達する高校生を対象に、生涯を通じて良い交通社会人となるための体系的な交通安全教育を行えるように、一般社団法人 日本自動車工業会が開発したテキスト。「ワークシート」を核にし、生徒と先生がコミュニケーションを取りながら授業を進める教育手法をとっている。



佐沼高校でも通学上の危険箇所を示す安全マップを作成し、文化祭で展示している。また生徒から交通安全標語の募集なども行った

※PDCAサイクル=Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(見直し)を繰り返すこと。